



武家嚴制錄續篇

自十至十二



73  
6534  
14



門 3  
號 6534  
卷 14



武家形制録續編卷之十  
享保七壬寅年分



一 來 十日大紋行列、東殿山、近雲屋、白湯、新  
 作出、其長行列、動、本、香、成、中、年、明、信  
 五、内、書、波、方、と、も、ハ  
 一 所成、之、節、是、火、書、并、油、の、多、く、清、番、行、列、交  
 西、動、北、島、の、方、古、り、列、動、の、也、を、趣、も、中、年、付  
 下、と、奉、り、所、成、の、通、振、の、之、を、分、り、り、列、動、の、也、  
 一 行列、の、水、の、動、方、の、信、受、の、は、存、由、断、の、成、り、出、来、り、  
 書、は、方、の、入、り、と、は、信、受、の、上、

昭和十四年  
一月十九日  
購求

正月二日

- 一 本 大行好尚。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 坐 了其長好尚。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 内 老後の方。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 清 清し候。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 火 火の事。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 行 行の事。おま子山所宮。沖參活長。
- 一 波 波の事。おま子山所宮。沖參活長。



二月廿一日

覚

- 一 目 解 書 籍 其 用 有 而 物 之 無 之 者 多 矣 年 月 日 不 持 之 以 其 家 事 又 以 知 之 百 姓 所 人 等 之 事 也
- 一 右 書 勅 之 儀 付 之 事 居 之 事 也 林 大 學 院 父 子

一 正法在族公已上

一 正月

一 目錄

一 新國史

一 中野無記

一 寬平日記

一 付集解

一 延喜日記

一 金令抄

一 弘仁式

一 貞觀式

一 法曹類林

一 為政錄

一 風土記

一 本朝月令

一卷  
三卷より六卷まで

一 律

二卷より六卷まで  
八卷より十卷まで

一 令集解

二十四巻より二十七巻まで  
三十七巻より三十九巻まで

一 類聚三代拾

二卷 四卷 六卷

九卷 十一卷 十三卷

一 類聚國史

六卷 八卷 十卷  
 十一卷 十二卷 十三卷  
 十四卷 十五卷 十六卷  
 十七卷 十八卷 十九卷  
 二十卷 二十一卷 二十二卷  
 二十三卷 二十四卷 二十五卷  
 二十六卷 二十七卷 二十八卷  
 二十九卷 三十卷 三十一卷  
 三十二卷 三十三卷 三十四卷  
 三十五卷 三十六卷 三十七卷  
 三十八卷 三十九卷 四十卷  
 四十一卷 四十二卷 四十三卷  
 四十四卷 四十五卷 四十六卷  
 四十七卷 四十八卷 四十九卷  
 五十卷 五十一卷 五十二卷  
 五十三卷 五十四卷 五十五卷  
 五十六卷 五十七卷 五十八卷  
 五十九卷 六十卷 六十一卷  
 六十二卷 六十三卷 六十四卷  
 六十五卷 六十六卷 六十七卷  
 六十八卷 六十九卷 七十卷

一 明存古書 山 神宮 在 河 東 信 州 大 致 尚 矣

唐書九日也 抄引列傳通之 叙此依抄列傳卷之五 叙友 田百のり 前日七 附以 因 叙 在 尚 宗 入 出 爲 三 叙

抄引列傳之儀 抄引列傳之儀 抄引列傳之儀 抄引列傳之儀

二月十日

東 在 女 胃 大 致 引 列 傳 之 儀 抄 引 列 傳 之 儀 抄 引 列 傳 之 儀 抄 引 列 傳 之 儀

一 抄 成 道 節 之 又 之 書 并 抄 向 書 南 書 之 及 抄 節 北 書 之 西 方 引 列 傳 之 儀 其 題 也 中 事 對 之 是 也 抄 引 列 傳 之 儀 抄 引 列 傳 之 儀

一 根道の方より所動不及  
一 引別出動の事を経たはるはるの故を由事なり  
之故も方より建つてはるの由事なり  
已の事後の方より一の故なり

五月十八日

少為書物に漢字の中納月令より新書園史と古付海  
巻教の由事なり  
教の由事なり  
その事の方より海にてもなる

富二月

三年の事子七月大書福垣意の事より  
源里效の事なり  
其の事源里效の事なり  
其の事源里效の事なり  
其の事源里效の事なり  
其の事源里效の事なり

向後源里效の事なり  
支配方より源里效の事なり  
其の事源里效の事なり  
其の事源里效の事なり  
其の事源里效の事なり

の事

右の通商後其の思得得脱文を申す

宣二月

右の通商の事

科人遊放

右科人位に授けたる放免或は家別兩面又は其の  
科くは科ホクとも申す付放免者白簿と評く應り  
有るもの限内は是を在通い他は放免は有  
る方交りて是年於て儀も遊放の事と云ふ  
言はれり於て困り其の事存候遊放の事

納付喧嘩等々申す候有るもの事候は侍を申す事  
遊放申す候は納付の事候は格別  
申す事候は申す事候は

宣二月

是

一 所代に事候は法事毎度 勅使

候有る事候は申す事候は申す事候は  
申す事候は申す事候は申す事候は  
申す事候は申す事候は申す事候は  
申す事候は申す事候は申す事候は  
申す事候は申す事候は申す事候は

魚くさくさ

一 近代禮あり莫たふ京多々東への事よる日節を  
より守り成と夫ら多々東は又城の事

信守、古語未可成

右礼物語あり京多々東に信守其階家内なる事  
相いりて西へは信守なる事あり信守物語なる事  
よせ礼成と兼事なり部より己に兼事と好む成  
程の信守なり

寛政二月

私云は古語家にて信守通印事なる事

東流下合系之卷一冊別

向後屋敷より信守より信守なる事及方西に地  
信守より信守なる事

右書信守水信守と教は信守同封中なる事

寛政二月

私云は是の月中半田補より信守なる事  
羽伏なる事

改酒與信守なる事

其主人預主信守なる事信守信守信守代由なる事  
信守代那なる事

つらお渡り

一 有藤治代府よりまのち中山性神言理技流亦全

一 再足程申るる得る技を先んて申す

一 右同以 他刀根をたて打擧合々先んて申す

但酒相候主人の引のまの欠落申すも大至

人立之目内より欠落は申す申す

一 右二条町人の別率令申す治事同以他主人之

老高下由り申す

酒相言治道申換し老

一 色料四を損失し老に先んて申す申す

上隈町市分事

寅二月

四十九条

一 志坂町内分東に志坂陣通り酒池外作し此外志坂

陣通り新橋南に志下海塔之寺切通し志坂橋

より西に新地陣内通し松平越中寺橋町より西

白銀寺殿より西

八十九条

一 新堀堀の内通池田内橋棟町屋敷あり此所安

藤之柳町屋敷あり

付文之巻  
十位辻表所  
後有人名あり  
とあり

小日向の丁家

左之邊

小日向の丁家

次郎右衛門

一 本旗の西へ概丁あり田舎ありと田舎あり南の古  
海り赤坂の道赤坂の土井伊豆と横あり山王  
と永田と橋筋岸ありと山公東とあり同  
歩の亀井隠後と種あり通橋田舎端あり井伊  
掃於政柳の屋敷あり海り本旗ありと南の八丁  
旗地あり海りと本旗丁川あり昔新綱丁松平

右邊の字種あり

半辺白根丁家

依云忠平

半之字

一 稚子橋の版あり海り入地あり水陸寺及び種

系物就上所礼物負數減少之是大概

一 金百枚以上者 十枚

一 同五指枚以上者 五枚

一 同三指枚以上者 三枚

一 同二指枚以上者 二枚

一 銀千枚以上者 百枚

一 同五百枚以上者 五十枚

一 銀三百枚以上者 三十枚

一 同百枚以上者 十枚

但五枚以下共五枚

之數

一 同 三十枚 五枚

一 同 二十枚 三枚

一 時眼後百以上者 端綫角三指卷

一 同 五十指 麗角二寸半

一 貳十者 麗角一寸半

一 同 十者 麗角一寸

一 同 四者 麗角三毫

一 綿三百把以上者 五指把

一 同 二百把以上者 三寸把

- 一 同百把者 二十把
  - 一 同晒布百疋以上 三十疋
  - 一 同 五十疋  
二十疋 十疋
  - 一 同 二十疋 十疋
  - 一 十疋 五疋
- 此并以内土産物納之是又減少之管は并乞式  
 少くも内土産物納之并外土産物納之は併乞式  
 悉く敷種及る之故其内減少の中是より  
 一 端年重陽祭當時被敷之儀方身小身より一  
 二より拾と云ふ

- 一 隠居者并是物内送方と納之とおひらき
  - 一 番曲より納た白銀減少と名敷くと云ふ
  - 一 所産者又之は後年臨時に物納之令と云ふ海  
 幸くくし
  - 一 右に趣がたる新し<sup>礼</sup>禮物中より取らずに其<sup>先</sup>聖  
 書の效が度改めるとは方以納者月書之先申  
 へるとおひらき
- 寛二月  
 足

熊野三山権現社大般若會令度



御本指紀好古西今内一正因會心

宣四月

右熊野三山勅化性并寺社在河連名市所  
惟不紙有

光

一 万石以上、本若寺社本若寺、村長寺社本若寺  
石以上、本方石本中本事

但寺社本有、村儿本取之

一 万石以上、本若寺社本若寺、村、本河本若本若石  
第順是又、本河本若本若、本若本若寺社順、本若

河代友方、本若本若本若

一 万石以上、本若寺社本若寺、村、本河本若本若  
以是、本若本若本若、本若本若寺社順、本若本若代友  
方、本若本若本若本若

但寺社本有、村也本取之

一 万石以上、本若寺社本若寺、村、本河本若本若  
村、本若本若代友方、本若本若本若

一 万石以上、本河内本有、本社地寺院若順、本主本若本若加  
九、本若本若本若寺社、本順本河本順、本若本若石、本若  
順本若本若、本若本若代友方、本若本若本若

宣四月

今日新坂大車坊見世及び

村瀬伊左衛門

竹中主水

右寫因幡守

三寫清左衛門

水谷浅右衛門

赤井圖書

金田因幡守支配

内藤采女支配

泷川清波支配

為子内膳支配

武家嚴制編續篇卷之十一

一 火事有、時者、身、上、打、取、下、人、中、付、危、敷、石、防、一、在、  
 一 市、場、勿、論、招、り、下、人、中、一、年、見、指、出、お、取、子、  
 一 一 防、松、白、身、一、通、而、一、中、合、至、自、今、以、後、右、出、  
 一 一 為、名、一、風、下、見、且、没、人、也、一 作、付、山、方、身、上、取、取、  
 一 一 人、教、上、出、一 能、お、防、り、其、亦、見、局、台、上、仕、  
 一 一 答、子、而、死、一 傳、も、見、且、一 而、一 名、一 為、一 為、  
 一 一 一、以、同、身、應、可、ら、お、お、得、は、事、  
 一 一 一、小、身、一、軍、者、妻、子、お、人、と、付、送、は、り、お、る、下、人、一、お、

不足山官未尾发燒尖令(内)下人令今尾至  
市市也(秋)江(月)及(中)一(方)其(后)通(而)急(夜)  
一(中)月(尾)至(中)上

寅四月

幾(而)右(性)貨(因)地(之)後(裁)判(之)江(方)以(夜)改(政)  
貨(流)一(不)改(答)以(委)細(之)趣(若)江(勤)定(而)上  
一(之)以(取)會(之)上

寅六月

未(之)十(六)日(右)改(江)列(右)紅(葉)山(江)會(以)春(後)江  
作(之)一(其)云(江)方(江)初(之)改(之)不(否)一(改)以(去)付

- 一 今(之)日(之)内(查)岐(也)方(一)之(以)改(也)
- 一 江(清)之(改)之(及)之(以)其(之)一(之)今(也)一(招)稱(一)江(方)也
- 一 一(之)以(取)會(之)上
- 一 一(之)以(查)其(之)方(之)尚(書)若(江)列(之)及(也)勤(也)也
- 一 一(之)方(若)江(列)也(初)之(改)其(也)每(付)之(也)也
- 一 一(之)照(也)一(之)方(之)江(方)初(之)之(及)也
- 一 一(之)江(列)也(勤)之(也)未(之)江(方)之(也)存(若)也(也)改(也)也
- 一 一(之)查(改)也(方)之(也)也(也)

四月

一 端(午)時(後)只(今)上(之)一(之)改(也)也(也)也

沙帳子に草物に上りて

但只今と二ヶ所に向て土地所有未入通

一 重陽策當時扱只今と三ヶ所に向て一向

比懸山月塚に小社に上り

但只今と二ヶ所に向て地所有未入通

四月

元

一年中月次扱上物只今と一ヶ所に向て

土産に内中以上取て取事

一 右取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物



比取魚多々菓子何れも元加一都合四下度  
積りて只今と一ヶ所扱上物に要以月土産物  
比取取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

但おより府扱上物に要以月土産物

取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

一 酒肴に菓子類を以て内土産を以て取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

比取取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

取事

一 扱上減中の付署に取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

比取取事と一ヶ所扱上物に要以月土産物

何事

四月

先年言何年中款上物之儀付不紙書有  
在右方右方付之紙之儀知事云云白前  
只今言一年中款上物之書三月今何と何り  
二つ言上と好紙之儀事付云云何云云

口上

款上物之方と款上物之方と儀事付云云  
上云云

有言院極才七回忌

沙香真款上云云

私云と儀事付云云

一 白銀拾枚

六拾万石云云

一 同 六枚

二十万石云云

一 同 二枚

拾万石云云

一 同 二枚

五万石云云

一 同 壹枚

壹万石云云

壹万石分中と沙香真沙法事と云云  
白銀拾枚

以上

光

- 一 本方原下西下法音真教之使者摩斗月也
- 一 与初六時表門通之鐵方丈上言教之事
- 一 本方原下西下西下使者摩斗月也
- 一 四時上九時上之西下表門通之鐵方丈上言教之事
- 一 此亦上西下使者摩斗月也
- 一 表門通之鐵方丈上言教之事
- 一 有通之月即日可也

四月

光

- 一 今夜於塔上寺法事中宿之通之合内房舍
- 一 之法句滿塔间手談或之魏舍或之繩下
- 一 之形之在月事
- 一 法法事中普法鳴西系礼法中亦及亦事

四月

光

- 一 乘光晒日法法中亦通 法空元一法余法之節
- 一 緣系亦休事之西下法法好托記之
- 一 豫卷休事之西下直空想元大彼有亦之世蒙
- 一 也友老在法音法法好托記一法亦好

本月初日言每... 山谷... 松平...

而... 松平...

四月

於增上寺行法事

四月

廿六日

初日

廿七日

中日

廿八日

結願日

松平加賀守

松平若狭守

松平紀房守

松平清波守

井伊掃部頭

松平伊賀守

安友對馬守

右... 此度... 法事... 申... 向... 沙... 機... 撫... 水... 葉... 子...

... 葉... 子... 内... 夜... 二... 日... 執... 行... 精... 進... 乃... 也...

... 執... 上... 不... 及... 也...

一... 申... 在... 府... 万... 石... 以... 上... 分... 云... 子... 十... 月... 行... 法... 事...

一 通状上物之成、  
明法者、就、不及、已、  
右、通、  
四月

一 奉、  
下、  
代、

一 成、  
列、  
危、

一 但、

但、

一 且、

一 同、

一 同、

一 同、

一 同、

一 同、

四月廿三日

養子、

養子とていふは実子出来ぬとて実子家督なり  
と作付る候は又養子とて作付ぬれ大に返り  
の養子何れを以て認む候は亦るべし此病氣  
變り少く云難成候は相控り養子返りし  
候支配少く承應実方にお尋ねお遣り  
其取中ニ改支配と宗実子と家督とを尋ね  
候も病氣又と養父とて叶ふ中一返り候  
とて養子返りし候は実子家督と作付る  
候は但宗実子作付とて作付問難し候  
者無し候は初等候は死印一養子返りし候

候とて為務は次第の如し

宗実月

- 一人に遺言執物大將元中合し次第
- 一 意方所成に其時あり候は相控より其令とて  
通りぬる書に老若我に致し御目見ぬ候は以て  
之書依抄にいと大一時あり候は致交代當書に  
取らせ候あり候は致し御目見明書に老いふ  
及居代春日に返り致交代し
- 一 惣ろの書に致致退出の存能交代お替儀  
も致出せしとて同日に當書に致お替り

但組中付るるなり其改言は振る

右ノ通定又月節付於御番何月改出云々合はる

覚

想と進年法固凡水ノ換免打讀出宛納方不之身  
法旗中ノ少給米重後方并法高入る少拂方  
亦之及至席留進 少獲之給出京降有之尚也  
像之入勢ノ内給米重後方并居色其之支去年  
法之なる不納其之控川疎亦之破換亦之由る  
新捨至教ヶ内少善法之仰付支給之あり以  
此科不之百姓大及飢餓之老大ノ救米之由る

其之少南地におわく少減也石垣方及中ノ  
取之破換教之不有之控川ノ内入再控減之由る  
不之身去去年少切米重之内少之取減は由  
あり少務之向減少之由る 経年又少料亦之内  
も運送悪変所之由年貢米之亦之取減は  
お拂込米下直之取納も之給出給米重後方  
少南地にお場之由米下之給出是正失却之由  
少切米之由之別之給出之由  
思召之少南米之由去冬少切米重減其の由  
少切之由之由支右南米重減之由之由米少

不相海、信之信之... 此乃... 信之信之... 不相海、信之信之... 此乃... 信之信之... 不相海、信之信之... 此乃... 信之信之... 不相海、信之信之... 此乃... 信之信之...

公儀、此儀... 此乃... 公儀、此儀... 此乃... 公儀、此儀... 此乃... 公儀、此儀... 此乃... 公儀、此儀... 此乃... 公儀、此儀... 此乃...

作也、已上

寅五月十八日

函信智元、此乃書封

此乃... 函信智元、此乃書封... 此乃... 函信智元、此乃書封... 此乃... 函信智元、此乃書封... 此乃... 函信智元、此乃書封... 此乃... 函信智元、此乃書封...

思正のち、換毛の候、不中、下程の候、  
一、洗の候、は均れ、太、通、水、傍、の、水、を、  
方、度、之、一、思、正、の、候、法、後、不、倫、約、の、候、  
作、出、の、方、思、正、の、候、不、相、而、の、方、是、又、付、  
也、り、の、水、傍、方、水、の、網、戸、を、箇、の、方、に、  
之、傍、と、架、卵、の、義、等、の、方、有、候、候、唯、今、  
法、の、方、は、均、れ、の、方、及、太、林、の、方、  
候、實、の、方、は、均、れ、の、方、太、積、の、方、  
水、切、并、も、均、れ、の、方、水、傍、の、方、  
之、傍、あ、る、候、時、の、方、水、切、并、水、傍、の、方、

水、切、法、と、懸、いの、方、太、通、の、方、  
之、傍、の、方、作、出、の、方、未、  
思、正、の、方、は、均、れ、の、方、  
の、方、候、  
作、出、の、方、  
思、正、の、方、  
中、方、  
考、り、の、方、  
至、り、の、方、

ふと遊し事とす政法之西人お中難と推し進  
感とすの思ふ所也とす後法没未とす地と  
すお物とす勿論而も日本と致すの思ふ所  
海、 市身之出通とすの 思ふ所の事  
実にお物とすの事作す

寅五月

武家嚴制録續卷之十二

相州之橋城之島志抄鳥羽及島由公筆續  
舟法早舟其外武家之船之進出月分於浦  
賀石錢之儀之儀之儀及舟之舟方之者  
大く之舟之儀之儀之儀之儀之儀之儀  
相州之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

是

井上河内と卒去舟團お表向と西と老中  
完る時公の儀と儀と儀と儀と儀と儀と  
一 鷹之間詰着とす派類法書政物政法政令

何所機嫌四十八回時下有也城事  
一 唱物と十七日と祭事と十九日と二日信台位書信  
ふ書さるる也

六月十七日

一 大書番 司野海も与地之宅新在古の役於評言下  
沙妻に 一 役内門に信付

中後之免

大書番 司野海 中と組之宅新在古の役於評言下  
在書番 司野海 中と組之宅新在古の役於評言下  
有 一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海

一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海  
一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海  
一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海  
一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海  
一 役中 出山 海と和泉と委細水 一 書番 司野海

六月

右之役中 役の事 存書も 於有る 中 出山 海  
勿海 一 役中 出山 海 一 役中 出山 海  
中 出山 海 一 役中 出山 海 一 役中 出山 海  
心 役中 出山 海 一 役中 出山 海 一 役中 出山 海

作付は早先新大橋の思案より早急に  
有難くは 作付は名色銀申す如く早急に  
以て

右の作付は二月十七日之久保作後より西渡り  
七月二十日方石の商に百石方石百石  
宛迄と申す由は又糸勤交代半年の所用指  
は控へ由に候海

・ 諸大名より候海に申す

伊旗申すは百石の商人伊代に相替り候今  
言ふは先候と架多は伊代切米の扱持方申す

妻と云ふ所用節渡方引たる早先年不足  
に候はれ候方と云ふ候

或る此様用を重と云ふ候と并られ

此の片はきい候は今年に或る此切米も程  
相渡り候に用も此の支に候は是より伊代  
此の法もきい候は伊代方此の商に今年迄  
候と云ふ候は思存候り候は伊代人の内敷  
百人も此扱持に候は候は伊代と云ふ候  
伊代候と云ふ候は候は候は候は候は候は  
米百石に候は候は候は候は候は候は候は

作舟師の道金候納り方之由事新田ホニ云  
候中舟師候之由事之由事大子年之内ホ  
發お納りぬる由事其内年之由事  
之由事在江ノ年宛之由事免之由事後之由事  
息之由事何歳在府之由事江ノ年  
之由事道之由事思之由事舟師後在府之由事  
少之由事系之由事人数之由事

云

一系並取眼之候事今之由事松四月由事徳代之由事交  
替之由事舟師向後去一月之由事九月中

妾氏之由事

一婦子之由事服之由事其父之由事在江ノ年死之由事

之由事

一在江ノ年死有之由事其由事若年之由事者  
水服之由事其由事併一年之由事其由事  
火之由事其由事在江ノ年死之由事在府之由事  
之由事在江ノ年死之由事

一上米之由事大取之由事在江ノ年死之由事在府之由事  
其由事上米之由事其由事在江ノ年死之由事在府之由事  
功之由事

此第之新稿也、其意之其意之張紙者、  
を以て相波、事、

一 當年より米多、年々積り、秋中にて納公、乙上

宣七月

一 今度万石以上八本を上げ、毎年動、其意、  
用務、新、多、年、積、由、紙、乙上、  
年、動、出、用、積、年、又、其、海、水、不、以、或、高、地、  
古、後、八、本、は、其、後、年、出、多、矣、

一 此、年、も、又、其、積、年、不、如、之、に、其、意、八、本、を、  
用、之、後、も、何、し、の、本、を、後、も、何、し、也、

一 此、版、陸、五、段、一、統、は、何、年、動、其、意、  
其、意、何、し、難、江、心、四、百、石、は、八、本、少、く、其、意、上、  
し、若、し、何、年、動、其、意、何、用、積、年、不、以、或、高、地、  
ホ、り、中、動、年、一、万、石、有、百、石、刻、合、上、分、一、積、乙、  
以、て、其、意、也、

右、乙上、十、年、其、意、也、

右、乙上、蒲、沼、河、邊、枝、房、其、意、也、  
伏、見、其、意、万、石、以上、其、意、也、  
中、後、一、

右、乙上、河、邊、其、意、也、  
其、意、也、

吉中亦即... 亦即大名老熟交代

亦即大名老熟交代

辰三月

巳三月

松平安藤守

有馬三左衛門

細川誠中守

佐井左京守

松平浅右衛門

松平石川守

松平右馬守

辰九月

巳九月

松平加賀守

松平出羽守

松平丹后守

右衛門和守

松平大炊頭

松平古任守

松平陸奥守

卯三月

松平甲斐守

松平及右衛門

宗 封守

丹羽左京守

伊豆守

松平信守

南於右衛門

海白守

春堂守

秋月守

卯九月

松平法守

松平筑前守

松平中務守

上杉守

越田守

仙石守

系守

伊东守

福守

道守

辰三月

辰九月

垣 石 榎  
堂山 勝 之 郎  
瀧島 橋 津  
毛利 但 三  
足 塚 但 三  
清 島 如 水  
市 橋 之 政  
松 手 之 三  
古 方 之 辰  
立 花 之 雲

織田 播磨  
堀 辰 三  
建 部 丹 波  
加 藤 大 藏  
京 極 三 之 辰  
松 平 七 之 三  
松 平 八 之 三  
立 花 元 保  
加 有 出 三  
大 村 伊 三

島 津 辰 三  
六 之 伊 三  
毛利 周 防  
大 田 景 三  
毛利 清 三  
市 橋 之 政  
細 川 伊 三  
田 村 下 三  
分 部 之 辰  
市 橋 之 政

大 一 兼 信 三  
細 川 七 之 三  
森 安 藏  
池 田 平 三  
一 柳 周 防  
松 平 大 三  
中 川 大 三  
松 平 元 三  
星 田 三

木下大馬門住  
 相良堂江  
 森和永  
 卯九月年無  
 陽島加賀  
 長月年無  
 松平左衛門  
 九光丹仔  
 左桑庵  
 伊達和永  
 藏田和永  
 山崎和永

卯三月年無  
 月九月年無

津路土佐  
 重藏出雲  
 小出信濃  
 木下紀仔  
 池田内由  
 九光大陽  
 右島大和  
 右島信濃  
 谷出和  
 吉木出和

行相石見  
 伊東播磨  
 新田千住  
 柳平武藏  
 本島中務  
 松平七郎  
 松平信清  
 本島左衛門  
 松平左衛門  
 長月年無  
 日九月年無

卯九月年無  
 己三月年無

新庄後河  
 一柳和永  
 藏田紀仔  
 新田和永  
 堀田伊豆  
 内倉和永  
 松平和永  
 内倉和永  
 堀田和永

松平源四郎  
加藤和泉  
水野操博  
松平直道  
本多紀信  
本多兵衛  
吉原和泉  
酒井九郎  
松平和泉  
水野出羽

相馬信俊  
服部豊之介  
飯沼安藤  
吉原和泉  
酒井石見  
本多時久  
吉原和泉  
酒井和泉  
真田伊豆  
本多信方

卯九月系勤  
辰三月系勤

松平周防  
太田油中  
有馬左衛門  
松平采女  
西尾徳俊  
植村右衛門  
増山勘三郎

卯九月系勤  
辰三月系勤

牧野渡河  
島村内膳  
秋田信徳  
松平紀伊  
本多若狭  
小笠原和泉  
戸塚上総

水野書房之南 致合百四拾二人

尾之向  
牧野誠中

森川出羽

辰之月第節  
同九月滿

小笠原信俊寺  
升上持舟寺  
喜山因幡寺  
内宿伊賀寺  
松平 市正  
板倉 伊与寺  
羊倉丹後寺  
酒井越前寺  
河井 市原  
河井修理寺

卯九月第節  
辰之月第節

松平伯耆寺  
去井大炊師  
石川色殿師  
板倉 色江寺  
青山大膳宛  
去波丹後守  
去平 坂中寺  
板倉甲斐寺  
板倉譜波寺  
河井何持寺

右所書身之通

羊年代之通

款合之指四人

阿部其良寺

河田其良寺

松平伊豆寺  
朽木大膳  
去井甲斐寺  
松平 越前寺  
牧野 同防寺  
去平 越前師  
内宿下銘寺

永井越前寺  
三浦之波寺  
三宅 梅前寺  
京極 五膳正  
小堀 梅中守

去屋丸系龜  
内宿丹波寺  
酒井信濃寺  
福原丹波寺  
本多孝家寺  
安部持世寺  
井之能後寺  
大久保加賀寺  
永井伊豆寺  
内田信濃寺

鳥居丹波寺  
乃田大隅寺  
山口伊豆寺  
秋元伊豆寺  
福垣和泉寺  
保科源正寺  
松平右近將監  
久世隆俊寺  
阿部同徳寺  
榎村士佐寺

右世系人三台合設百二人

右世系人之圖之者三系先立者之在也  
南地之系之者三系先立者之在也

松平横波寺  
松平紀深寺  
右之圖之者ありて交代之記  
松平持津寺  
松平永吉寺  
松平右近寺  
松平親直寺

井伊掬助殿  
松平中絶寺  
松平大守殿  
松平播磨寺  
松平親直殿  
松平右近殿

松平源正忠

右之府分

南河津役人并之府西

戸田山城守

安友對馬守

松平右衛門左

大久保忠之守

本井伊豫守

渡辺備中守

丹羽武部少輔

松平重之介

水野和泉守

吉原伊豫守

石川正和守

大久保信俊守

松平忠輝守

松平大亮少輔

高平之守

本回伊喜守

松平中堅守

水野三岐守

米津出羽守

北條正和守

中津之角少輔

井上正和守

永井播磨守

稻坂熊比守

右指九人及人

間部誠申守

松平備中守

内友銀市

戸田右之守

堀 色江寺  
遠坂下寺  
細川備後寺  
井伊之染織  
依竹之政寺  
松平備前寺  
松平刑部寺  
上杉駿河寺  
堀田之四郎  
石指寺人

柳生備前寺  
松平之染織  
井伊周備寺  
依竹豐前寺  
松平之某政  
松平或戸小補  
堀田形部

前石之太名於合或百六指之人

文政四年辛巳三月十八日寫竟

古屋惟明 淺見忠和  
藤田延喜

淡路 今川 氏  
松平 清房 氏  
依竹 平政 氏  
井伊 直正 氏  
細川 信元 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏

赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏  
赤松 氏

